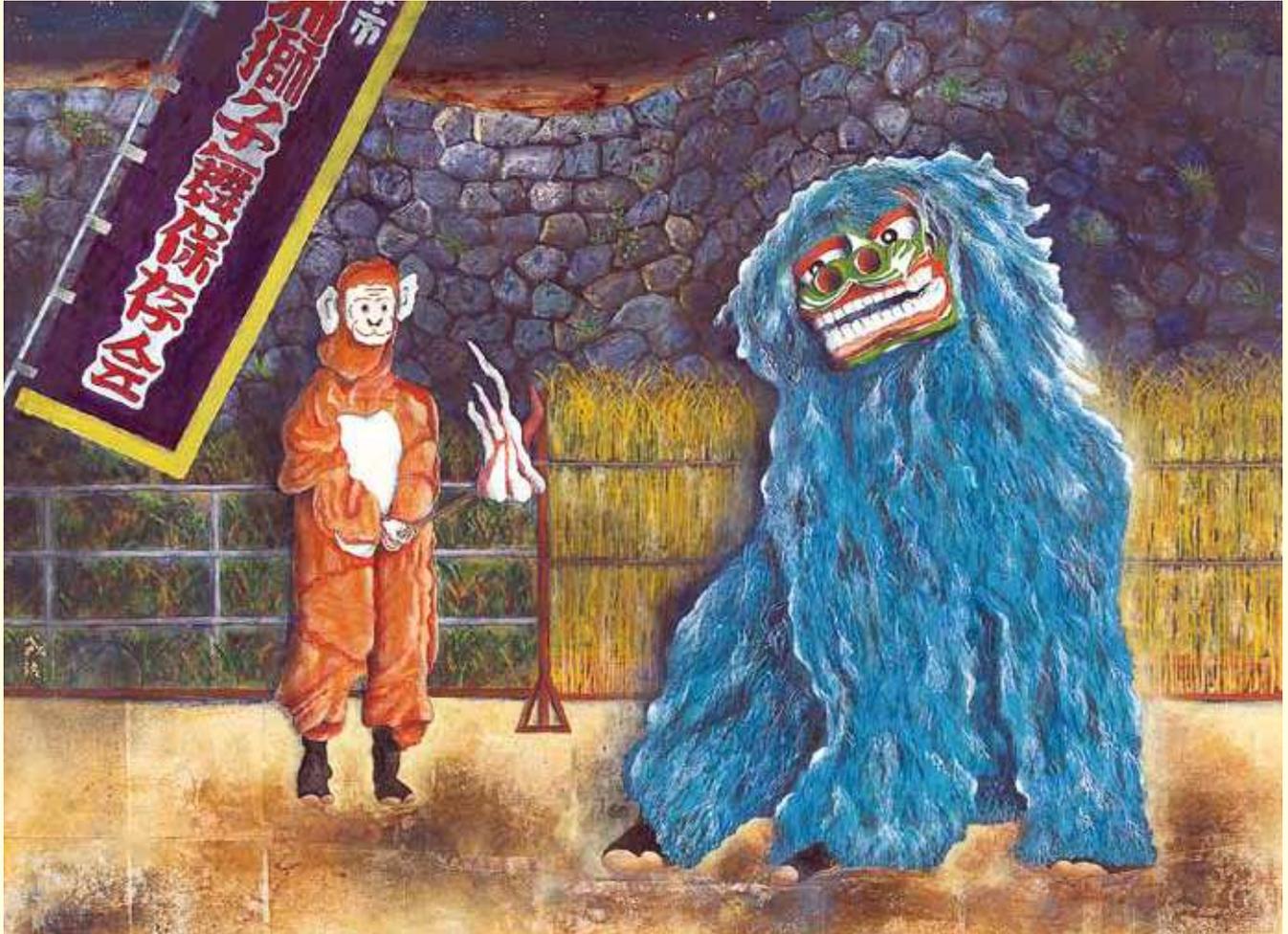




# おきなわ



作品名：「シーシとワクヤー」(第11回沖縄ねんりんピックかりゆし美術展 日本画の部銀賞)  
作成者：榮野川 盛治さん(うるま市)

目次

- ② 特集 沖縄県地域生活定着支援センター事業 ～触法高齢者・障害者の依存症と向き合う～
- ④ THANKS(サンクス)運動関連記事「市町村の相談体制を強化する社会福祉法の改正」他
- ⑥ 輝くシニア世代 ～人生の先輩から健康・生きがいづくりを学ぼう～ 他
- ⑦ インターネットを活用した研修事業の開催 他
- ⑧ シリーズ記事「ふくし&〇〇」第5回～ふくし&音楽(後半)～ 他
- ⑨ 令和2年度沖縄県福祉人材研修センター～オンライン研修のご案内～
- ⑪ 赤い羽根共同募金運動が始まります！つながりをつやさない社会づくり～あなたは一人じゃない～ 他
- ⑫ インフォメーション、寄付者芳名、表紙の絵 他

🍷 広報紙「福祉情報おきなわ」の作成経費の一部に共同募金配分金を充てております。

# 特集

## 沖縄県地域生活定着支援センター事業

### ～触法高齢者・

### 障害者の依存症と向き合う～

県社協では、平成22年度から沖縄県の委託を受け、沖縄県地域生活定着支援センター（以下「本センター」という）を設置しています。

本センターでは、触法高齢者・障害者が矯正施設出所後に円滑な社会復帰が図られるよう、住居の確保をはじめ、年金や生活保護、各種福祉手帳・サービス、入院・通院等の利用調整等の支援を行っています。

具体的な支援のプロセスとしては、矯正施設入所前から、支援対象者と面談等を重ね、本人の意向やニーズを踏まえ、関係機関等と支援ネットワークを構築しつつ、出所後の生活プランを組み立てていきます。出所後は、当該プランをもとに、関係機関と役割分担しながら、本人の自立生活を支えていきます。



### ワンネスグループとは

ワンネスグループは平成17年に奈良県で始まり、薬物等の依存症の回復者が中心となって、彼ら自身による運営や依存症予防啓発活動に取り組んでいる民間団体です。

### 沖縄GARDENJUNIOR

依存症を抱える方々からの「地元へ帰り、依存をやめ続けたい」という声を受け、平成25年にワンネスグループ「沖縄GARDEN」が設立されました。

依存状態にある方々が抱える「なぜ薬物や飲酒等に依存しなければならぬのか」という根本的な問題を一緒に考え、その方らしい健康的で新しい生き方が得られるようサポートをしている施設です。今回は沖縄GARDEN職員の一森 裕氏へお話を伺いました。

**一森氏**：沖縄GARDENを利用する方の中には、「依存症、犯罪者」と世間から呼ばれる方々があります。当センターの利用者の共通する部分として、①孤立感を常に感じている、②機能不全となった家族で育つ、③自己否定が

強い・自己肯定感が低い点が挙げられます。

このような特徴がある方は、仲間との共通経験や関係者との安心した信頼関係を通して、徐々に自己の感情や感覚を取り戻していきます。このプロセスは、いわゆる「自己成長」「セルフグロス」と言われています。ワンネスの支援において、このプロセスを重視しています。

### 実際の支援活動

**一森氏**：これまでは依存症脱却を目標としたプログラムでしたが、利用者が自分らしい生き方を見つけていくというプログラムに変わりました。その内容としては、仲間と一緒に午前から夕方の間で対話や座学を受講し、共同作業を行う中で、仲間と作り上げた経験や気持ち自身が自己成長に繋がるといった内容です。

### 支援活動の変化

新型コロナ感染症の影響により、生活様式や支援の方向性を見直す機会になったと伺いましたが、相談内容等に今までと比較してどのような変

化がありましたか。

**一森氏**：当該感染症の拡大以降、相談件数は増え、例えば利用者からは「昼からお酒を飲んでしまう」との声や、一般の方から「子どもがゲームばかりしていてどうのように関わったらいいか」等の相談が寄せられています。そこで、私達はコロナ禍においても利用者と継続したコミュニケーションが図られるよう、従来の「対面相談」に加え、オンラインミーティングを取り入れました。

また、相談内容の変化だけでなく、当該感染症拡大を機にポジティブ心理学を取り入れるなど支援の方法を変更することにより、感染リスクを下げる的同时に、利用者全員との繋がりを維持することが出来ました。また、県外施設の利用者もオンラインミーティングに参加することで、利用者同士が考え方や行動の工夫を共有が出来て、自己成長の助けになりました。「失敗しても、支援者は利用者のことを諦めない・関わり続けることが大事」です。

## 本センターと

### 沖繩GARDENとの連携

「連携の大切さ」を伺いましたが、今まで、本センターと貴団体とお互いに役割分担をしながら、利用者の支援を行ってきました。本センターが支援し出所後の最初の生活の場として、貴施設において生活している利用者の現在の様子はどうですか。

**一森氏**…本センターからの利用者は、入所前と入所後の様子は全く違い、とてもいい方向に進んでいます。しかし、本人自身は他者と比較し「自分なんて…」、「どうせ頑張っても意味ない…」と疑心暗鬼になっています。この利用者の性格はとても頑張り屋で、仲間にも優しく心配り出来る良い所もあります。各種プログラムを通して本人の長所を伸ばし、設定した目標に進めるよう、機会を作りたい。当初は諦め感が強く、自己肯定感が低い印象を受けましたが、今は職員から声掛けをしなくても座学やミーティングに参加し、他者に対して声掛けが増え、課題だった協調性も身に付いてきました。また、私が「あなたのこと

とを絶対諦めないよ、まずは目標と一緒にやってみよう」と声を掛けると笑顔が見られます。継続した関わりから本人は、過去や自己の気持ちを中心に周囲に打ち明けられるようになりました。本人は苦しいかもしれませんが、現在のステップだけでなく、悩むことや、落ち込むことは、大事な過程で本人にとって必要な期間でもあります。本人からも「ここに来て初めて断酒が一年以上出来ている」と支援者として嬉しい声もいただけました。

**本センター**…本センターとしても本人の気持ちに寄り添い、代弁したり、課題を一緒に考えたり、解決案を提案する必要があると感じました。また、本人の気持ちや課題に応じて、これからも関係先と役割分担を行いたいと思います。対人関係や生活で行き詰まりそうな時、潤滑油となつて、これからも本人の意向に沿ったサポートをしていきたいと考えています。

### 連携の上でこれからの課題

本センターは、様々な対象者の支援方を、各関係機

関と調整する中で、支援の難しさを日々感じています。同じ利用者の社会復帰を支援している機関として、連携上の課題について、伺いました。

**一森氏**…以前から私達の中で、他機関との連携が課題として認識しており、今回の当該感染症を機に、対象者支援の社会資源や相談窓口の一つとして検討してもらえよう、今年も研修や事例検討会等の企画を検討しています。

また、発達障害や精神障害等の支援プログラムに中々取り組めず、支援者との関係構築が難しくなり、依存症施設を退所後の居住確保や生活支援の連携・協力を得にくいケースがありました。依存症施設に繋がる前に、早期に介入できるように、相談ベースから、本人や家族支援を進められるよう、他機関との相互理解、実際にチームの二員として支援を行いたいです。

### 依存や孤立しない工夫とは

今回、インタビューを機に、これから感染拡大の第二波を想定し、当事者や支援者にアドバイスをいただけません

か。

**一森氏**…やはり、規則正しい生活が大事です。免疫力を上げるよう、睡眠時間の確保が必要ではないでしょうか。私達の施設は、今まで0時消灯でしたが、最近11時消灯しても、全員10時には就寝し、朝早起きし、生活習慣の改善した人が増えました。また、スポーツや瞑想、礼拝に励む方は自分自身と繋がりが、自己の人生の目標を見付けた方もいます。皆さんが仲間との共感や経験を通して自立し、その人らしい生活を得られるよう、施設退所後も関わり続けていきたいです。

### さいごに

今回、沖繩の社会問題の一つである依存症と社会的孤立の関係について、本センター事業に絡めインタビューを行いました。そこから、依存症の捉え方や支援のヒントをもらいました。相互理解をスタートにこれからも、当事者を中心としたネットワークを広げ、利用者と共に悩みながら人生の答えを一緒に探し続けることが必要かもしれません。

今回のインタビュー協力者

ワンネスグループ

沖繩GARDEN 職員

一森 裕様



▲回復プログラムを受講している様子

**用語説明**…依存症とは一般的に「物質や特定の行動を反復し、身体的・精神的になくってはならない状態と自己制御が出来なくなる。その結果自身や周囲を傷つけ、巻き込む等社会生活が困難になる問題」である。



「地域の人々が明るいネットワークを築き支え合う社会」を合言葉にはじまったサンクス運動。地域社会が変動する中、支え合う社会を築く多様な活動が行われています。今回のサンクス運動関連記事では、社会福祉法などの改正ポイントやサンクス運動との関係性等を紹介いたします。

令和2年6月、「地域共生社会の実現」に向け、市町村の相談体制を強化する社会福祉法などの改正がされました。今回のサンクス運動関連記事では、法改正のポイントや今後のサンクス運動との関連性について紹介します。

改正のポイント

この度、公布された改正法は、地域共生社会の実現を図るため、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な福祉サービス提供体制を整備する観点から、市町村の包括的な支援体制の構築が大きなポイントとなっています。

概要としては、市町村において、既存の相談支援等の取り組みを活かしつつ、地域住民の抱える課題の解決のための包括的な支援体制の整備を行う、新たな事業及びその財政支援等の規定が定められました。

新事業  
「重層的支援体制整備事業について」

「地域共生社会の実現」に向けた新たな事業として、引きこもりなどの制度のはざまで孤立した人や家庭を把握し、伴奏支援ができる体制の整備を目指して「重層的支援体制整備事業」が創設されました。

「重層的支援体制整備事業」とは、「断らない相談支援」「参加支援」「地域づくり」を一体的に行い、困りごとの解決を目指すだけではなく、地域社会とのつながりを取り戻すことで困りごとを小さくするような関わりも重視されています。

- ①「断らない相談支援」  
本人・世帯の属性にかかわらず受け止める相談支援
- ②「参加支援」  
本人・世帯の状況に合わせ、地域資源を活かしながら、就労支援、居住支援な

どを提供することで社会とのつながりを回復する支援

③「地域づくりに向けた支援」  
地域社会から孤立を防ぐとともに、地域における多世代の交流や多様な活躍の機会と役割を生み出す支援

今後の取り組みについて

「重層的支援体制整備事業」が創設されるにあたり、地域共生社会の実現に向けたモデル事業（「地域力強化推進事業」「多機関の協働による包括的支援体制構築事業」）に、新たに「地域づくりに向けた支援」「参加支援」等の内容が追加されております。

また、重層的支援体制整備事業の実施にあたっては、高齢、障害、子ども、生活困窮の制度ごとに分かれている相談支援などの関連事業について、財政支援を一体的に実施していくことが示されています。

このほか社会福祉法には、複数の社会福祉法人が事業運営で連携する「社会福祉連携推進法人制度」が創設され、法人間で資金を貸し借りできるよう規制の緩和、災害時の対応、人材確保・育成などの協働しやすい環境をつくることなども新たに示されました。

サンクス運動との  
関連性と今後の展望

サンクス運動では、これまでも、住民主体の支え合い活動・住民相互の取り組みの推進や、関係機関が連携して対応する取り組みの推進を運動の柱として推進してきました。

法改正の趣旨を踏まえても、サンクス運動やこれまで社協と関係機関が連携して取り組んできたことが改めて重要と再認識されました。県社協では、今年度から「地域力強化事業（ゆいまーる事業）」「小規模法人ネットワーク化事業（ちゅいしいじ

い事業）」をサンクス運動の一環で取り組んでおります。今後は、県内各地域での地域共生社会の実現が推進されるよう、各市町村社協や関係機関・団体と連携しながら、地域における社会的孤立の解消・防止に向けて取り組んでまいります。



▲那覇市社会福祉法人等施設連絡会の様子（ちゅいしいじ事業）



▲包括的支援体制づくり検討会の開催（ゆいまーる事業）

# 沖縄県子ども居場所ネットワーク

サンクスメッセージが届きました!!

お気軽にご相談ください!!

県が子ども食堂の開設を応援!

前号（Vol.192）でも報告しましたが、県子ども居場所ネットワークでは、新型コロナウイルスの休校期間中に、県を通じて県内外の企業の皆様から多くの食料品等の寄贈をいただき、県内の子ども居場所延べ218か所に配分しました。

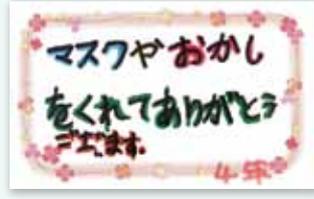
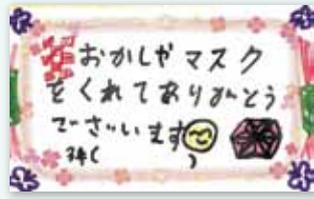
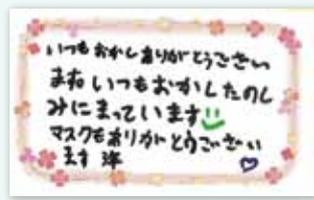
7月下旬、ある居場所の代表の方から「今週末から夏休みが始まるが、食料品等の寄付・寄贈が以前より減り、支援の継続に不安がある。支援の継続していくために食料品の寄付寄贈や助成金情報があれば教えてほしい」との声がありました。

お菓子やマスクを受け取った、浦添市内の子どもの居場所「ムジカバンビーネ」を利用して子ども達からメッセージカードが届きましたので御紹介いたします（個人情報保護のため氏名は伏せています）。

県ボランティアセンターと情報共有し、活用できそうな助成金について情報提供を行いました。お困りごとなどがありましたら、お気軽に県子ども居場所ネットワーク（098・887・2000）までお寄せください。

県では、食事を通して子ども達が安心して過ごせる空間を提供する子ども食堂の取組を、県内全域での普及・定着を図ることを目的として、子ども食堂を開設する民間団体に対し、1か所あたり50万円を上限として開設に必要な経費を補助する「子ども食堂開設支援事業」をスタートさせました。

最終受付は令和2年11月30日（必着です）。応募団体の主な資格要件や補助対象事業、提出書類等の詳しい情報は、県子ども未来政策課（098・886・2100）までお問い合わせください。



▲子ども達からのサンクスメッセージ(一部抜粋)

スマホからもアクセスできます



## コロナ禍における市民活動の課題と支援の取り組みについて

沖縄県内の中間支援団体から構成される「おきなわ市民活動会議」では、感染拡大の影響によりNPO等が抱える運営・活動上の不安や工夫を共有するとともに、必要な支援につなげることを目的に4月に緊急アンケートを実施しました。

回答のあった91団体のうち、96.7%が「活動内容における何らかの影響を受ける」、79.2%が「法人（組織）の経営における何らかの影響を受ける」と回答しました。特に影響が出ているものとして「顧客や利用者の減少」や「出勤抑制や休校等によりスタッフの確保が困難」等が挙げられました。

その結果を基に、「新型コロナウイルスの影響によるNPO及び多様な市民活動の存続危機に対する支援に関する要望書」を県及び那覇市へ提出し、今後行われる企業向けの支援策などの対象に、NPO法人及び準じる組織も加えること等の必要性について訴えました。

要望を受け、那覇市では「新型コロナウイルス感染症対応市民活動力アップ相談事業」として、団体運営や今後の活動について悩まれている市内のNPO・市民活動団体等を対象に、労務や会計・税務等の経営面や多分野の活動面に関する専門相談を8月3日から12月25日（土日祝日を除く）に実施します。

問合せ先は  
NPO法人まちなか研究所  
わくわく  
電話・FAX  
098(861)1469

## コロナ禍におけるボランティア活動等の進め方について

全国社会福祉協議会では新型コロナウイルス感染症状況を踏まえ、「新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した地域住民等による福祉活動・ボランティア活動の進め方」をとりまとめました。

詳しくは全国社会福祉協議会ホームページで確認できます。

# 輝くシニア世代

人生の先輩から健康・生きがいづくりを学ぼう

## 全国健康福祉祭(全国ねんりんピック)派遣選手の紹介

「福寿」を目標にサッカーを楽しむ



▲サッカー競技  
真栄城勉さん

平成7年に奈良県で開催されたスポレク祭に廻ります。同大会での60代選手の活躍に感動し、シニアリーグの開幕を決意したと言います。

第32回全国ねんりんピック和歌山大会等に出場した真栄城勉さん(沖縄市在住)。  
真栄城さんは、沖縄県シニアサッカー連盟の会長を務める傍ら選手としても競技を続けています。

中学生の頃、高校生のサッカーの試合を見たことをきっかけに、高校進学とともにサッカーを始め、大学、社会人と「競技力の向上」を目的にトレーニングに励んできました。現在は、「サッカーで『福寿(幸福で長生きすること)』を！」というスローガンを掲げ、競技を楽しんでいるそうです。  
真栄城さんが会長を務める連盟主催の沖縄県シニアサッカーリーグ(以下「シニアリーグ」という)誕生のきっかけは、

「勝敗以上に大事にしていることは、チームメイトや相手チーム、そして審判へのリスペクト(尊敬)。シニアリーグに参加している選手は、しっかりと他者をリスペクトし、他者からもリスペクトされる人間であることが大切」と話し、「そのような仲間と全国ねんりんピックの機会等を通して、互いに言い合い、思い思いにプレーを楽しむことができる」と競技仲間への思いなどを語ってくれました。

「短期目標は、2022年6月に沖縄県で開催予定の全日本シニアサッカー大会に向けて沖縄県チームの競技力を上げること。長期目標は、『福寿』を目標にサッカーを楽しむこと」と抱負を語る真栄城さんの笑顔はとても輝いています。

県社協・いきいき長寿センターでは、「健康・生きがいづくり」と地域活動の担い手養成を目標に各種事業に取り組んでいます。本頁では、日々の生活を楽しく、元気に送られている「ちやーがんじゅつ」な60歳以上の方々の活動等を紹介しています。

## かりゆし長寿大学卒業生地域活動の紹介

読み聞かせサークル

第27期かりゆし長寿大学卒業生の我那覇千代子さんへ「かりゆし朗読・読み聞かせサークル(以下「サークル」という)の活動についてお話を伺いました。

サークルのはじまりは、第27期かりゆし長寿大学の学習発表会で保育園実習の様子を舞台で発表したこと。発表が大好評だったこともあり、「朗読・読み聞かせサークルをやって欲しい」という声が多くあがったことから発足し、今年で3年目を迎えます。

サークルの活動は、毎週火曜日の午前中、県総合福祉センターにて行われており、メンバーは、かりゆし長寿大学の卒業生で構成され、遠くは名護、金武町から約2時間かけて参加する方もいらっしゃるとのこと。「貴重な時間をかけて来てくださっているのだから、一つでも多く得たい気分で帰って頂きたい」と我那覇さんは言います。

かりゆし長寿大学同窓会の文化祭で、12名の読み手で群読を行い美的に音声を発表することが出来たというエピソードも聞かせていただきました。

その他、特別養護老人ホームで読み聞かせを行うなど、サークルの精力的な活動が窺えました。  
現在は、新型コロナウイルスの影響で活動の中断を余儀なくされていますが、今後は、地域の幼稚園や小学校等で読み聞かせをしたいと抱負も伺いました。



▲発声練習の様子

## 第33回全国健康福祉祭ぎふ大会及び第12回沖縄ねんりんピックの開催延期について

10月31日(土)から11月3日(火)に開催が予定されていた「第33回全国健康福祉祭(全国ねんりんピック)ぎふ大会」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、参加者の皆様の十分な安全を確保することが困難であると判断され、来年へ延期となりました。

それに伴い、「第34回全国健康福祉祭(全国ねんりんピック)かながわ大会」の県予選会である「第12回沖縄ねんりんピック」につきましても、来年への延期が決定しました。

ご理解・ご協力をよろしく願います。

## インターネットを活用した研修事業の開催

本会では、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、これでは集合形式にて行っていた研修の一部をインターネットを活用したオンライン形式により開催しました。

### DWATおきなわ登録研修

「DWATおきなわ」は大規模災害発生時に避難所に駆け付け、高齢者や障がい者など支援を必要とする方をサポートする福祉分野の専門職チームです。

研修には、38名が受講し、通信アプリの「Zoom」を活用し、配信を行いました。講師から提供される資料を、それぞれのパソコン画面上で共有しながら受講する形式です。また研修後半には、オンライン上でグループディスカッションも実施しました。

### 社会福祉法人監査セミナー

一方、多数の参加者が見込まれ、大型ホール等において実施される研修では、研修のライブ映像をインターネットで配信する方式にて実施しました。

県社会福祉法人経営者協議会において実施した「社会福祉法人監査セミナー」では、研修会場において受講する方法と、オンライン上で受講する方法を選択できる形式をとりました。毎年200名近くが受講する研修ですが、今年は半数の100名ほどが、各所属施設においてオンラインにて受講しました。実施後のアンケート結果から、特に離島地域の社会福祉法人において、移動に係る時間・経費の節約効果があったなど、オンライン受講によるメリットをあげる声も多くありました。



▲DWATおきなわ登録研修配信の様子。講師は桑原英文氏

今後本会では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、インターネットを活用したオンライン研修会を随時実施していく予定です。

## 介護講座のご案内（沖縄県介護実習・普及センター）

### 従事者向けのスキルアップ講座

9月23日(水)【受付8/21】  
移乗を助ける用具の活用

9月30日(水)【受付8/28】  
排泄用品の選び方

10月28日(水)【受付9/28】  
ポジショニングの方法

【延期・調整中】  
誤嚥予防(食事姿勢等)

対象：介護従事者

定員：8名〜12名  
時間：13時半〜16時半

※④のみ15時半まで

参加費：1000円

### 一般向けのはじめの介護講座

9月16日(水)【受付8/14】  
排泄ケアの基礎知識

10月14日(水)【受付9/14】  
福祉用具の選び方

11月26日(木)【受付10/1】  
基本を知ろう！動作介助

12月16日(水)【受付11/16】  
介護保険制度の知識

対象：一般県民

定員：8名〜12名  
時間：13時半〜15時半

※①のみ16時半まで

参加費：200円

●動きやすい服装と運動靴  
(体育館シューズ等)をご準備ください



## 福祉機器展示コーナー紹介

「見る・触れる・試す・学ぶ」を通して、福祉用具の紹介や介護相談・見学会の受け入れ・講座の実施等介護力のサポートや普及活動に努めています。



※介護に必要なさまざまな福祉用具を展示していますよ！

【お問い合わせ先】

県介護実習・普及センター

TEL 098-882-1485

FAX 098-882-1486

※詳細についてはホームページを活用して下さい

## 地域の家族会（介護者の会）の支援を進めます

県社協・介護実習普及センターでは、地域の介護力の向上等を目指して、モデル地域の社協との連携により、介護者の会の活動促進を図ります。

県内の介護者の会の実態や取り組み促進における課題等を把握し、市町村社協のコミュニケーションソーシャルワーカーや生活支援コーディネーター等と共有しながら、地域の助け合いの仕組みづくりを進めます。

ハートフルな地域があったらいいな！その想いを形に「介護は「笑顔が100%」という前向きな考えをモットーに元気で楽しい地域づくりを目指して取り組みます。



▲あだんの会・虹の会介護者交流会



この「ふくし&」では、様々な形で地域福祉の推進に取り組む事業所等を紹介いたします！

第5回

ふくし&音楽（後半）

今回は、前回7月号で紹介した「一般社団法人琉球フィルハーモニック」が運営する児童デイセンター「こどもの城ミュー」について、所長／相談支援専門員／音楽療法家の高良 幸人さんから伺ったお話を紹介します。

高良：「こどもの城ミュー」は児童発達支援・放課後等デイサービス事業所として、音楽療法に特化した個別療育支援を行っています。

子どもにとっての音楽療法は、機能回復訓練としての「リハビリテーション」としてではなく、一人ひとりの個性や特性を生かし、可能性を引き出す「ハビリテーション（療育支援）」です。楽器だけでなく、水やおもちゃ遊び、すべての動きの中に「音」や「リズム」があり、その「楽」しさを与えるだけでなく、感情の解放を手立てとして音楽療法があります。

音楽療法は音楽を利用する方法として、楽しさの中で歌ったり遊んだり

しながら、気持ちの表現を通して、自主性・自発性を育てることをサポートすることが出来ます。また、親も一緒に通う親子通園により、子どもをケアする親のケアも行い、親子にとって安心できる居場所であることを大切に支援しています。

「こどもの城ミュー」の音楽を通じた療育は、子どもとその親がともに育ちあうことをサポートしています。

また、前号7月号で紹介した「一般社団法人琉球フィルハーモニック」は「こどもの城ミュー」やジュニアオーケストラの運営、障害児者やその家族などを観客とした美らサウンズコンサートの開催を通じて、様々な地域社会貢献の音色を奏でています。



「美らサウンズコンサート」が今年も開催されます！詳しい内容は下記HPをご覧ください

一般社団法人 琉球フィルハーモニック  
https://ryukyuphil.org/

令和2年度  
社会福祉施設  
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険 検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の  
事故・紛争円満解決のために！

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

■ 基本補償(賠償・見舞)

▶ 保険金額		
賠償事故	身体賠償(1名・1事故)	基本補償(A型) 2億円・10億円 見舞費用付補償(B型) 2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円 2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円 200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円 20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円 1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円 1,000万円
	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円 2,000万円
お見舞い等	事故対応特別費用(期間中)	500万円 500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度 1事故10万円限度
	傷害見舞費用	死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通院時1~3.5万円

保険期間1年

▶ 年額保険料(掛金)		
定員	基本補償(A型)	
補基本 1~50名	35,000~81,460円	
付基本(A型) 51~100名	68,270~97,000円	
付補基本(B型) 100名以降1名~10名増ごと	1,500円	
基本補償(A型) 保険料	+	【見舞費用加算】 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円



スケールメリットを活かした  
充実した補償と  
割安な保険料  
です。

- プラン2 施設利用者の補償
- プラン3 施設職員の補償
- プラン4 社会福祉法人役員等の補償

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、個人情報取扱事業者賠償責任保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会  
引受幹事 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課  
保険会社 TEL: 03(3349)5137  
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)  
損保ジャパン日本興亜は、関係当局の認可等を前提として、2020年4月1日に高号を変更し、「損保ジャパン」になります。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス  
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763  
受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

# ～オンライン研修のご案内～ (沖縄県福祉人材研修センター)

今般の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度沖縄県福祉人材研修センターの研修会については開催を延期しておりましたが、状況の収束の見通しが立たないことから、受講者の安全と研修機会の確保を考慮し、全てオンライン研修とDVD(録画配信)に切り替えます。是非、ご参加ください!



区分	番号	研修名	研修対象者	予定人員	実施予定月	
新任・初任研修	行政・施設・保育所	1	福祉事務所等生活保護担当職員研修(新任)	福祉事務所等で生活保護担当1年未満の者及び福祉事務所長が受講を必要と認めた者	80人	7月30日、31日
		2	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程(初任者コース)	各福祉施設・事業所等において入職後3年以内の職員(新卒入職後3年以内の職員、他業界から福祉現場へ入職後3年以内の職員)	60人	9月17日、18日
		3	① 保育所等初任保育士研修(北・中部地区)	公立保育所、認可保育所、認定こども園、へき地保育所、地域型保育事業に勤務する経験年数3年未満の保育士(すでに当該研修を受講した者を除く)	100人	10月20日、21日
			② 〃(南部地区)	〃	150人	10月22日、23日
			③ 〃(宮古地区)	〃	50人	10月25日
④ 〃(八重山地区)	〃		50人	10月24日		
現任研修	行政・施設・保育所	4	福祉事務所等生活保護担当職員研修(中堅)	福祉事務所等で生活保護業務を担当する現業員で、経験年数1年以上の者	50人	1月28日、29日
		5	児童相談所等相談機関職員研修	児童相談所の児童福祉司、児童心理司、児童指導員、心理判定員、福祉保健所及び福祉事務所の家庭児童福祉主事並びに家庭児童支援員・家庭相談員、母子自立支援員、女性相談所婦人相談員	60人	2月8日
		6	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程(チームリーダーコース)	各福祉施設・事業所等において「チームリーダー」や「リーダー」として指導的立場を担う職員(役職名称例:主任、係長等)	60人	11月10日、11日
		7	児童養護施設等基幹的職員研修	児童養護施設、乳児院、児童自立支援施設、児童心理治療施設、母子生活支援施設の職員で、実務経験がおおむね10年以上の職員	50人	9月8日、9日
		8	児童館職員研修	児童館に勤務する職員(館長・児童厚生員等)及び市町村の児童館担当職員	50人	2月中旬
		9	社会福祉施設給食担当職員研修	社会福祉施設において給食を担当する調理員、栄養士	60人	1月中旬(予定)
		10	① 児童福祉施設等給食担当職員研修(公立保育所、認可保育施設等)	公立保育園、認可保育施設、認定こども園、小規模保育所等において給食を担当する調理員、栄養士	200人	11月下旬
			② 〃(認可外保育施設等)	認可外保育施設等において給食を担当する調理員、栄養士	100人	12月上旬
		11	① 認可外保育施設職員研修(北・中部地区)	県内認可外保育施設等において保育に従事する職員	100人	2月6日
			② 〃(南部地区)	〃	100人	2月7日
			③ 〃(宮古地区)	〃	30人	10月25日
④ 〃(八重山地区)	〃		30人	10月24日		
専門研修	行政・施設	12	子育て相談援助技術研修	地域子育て支援センターに勤務する職員	40人	2月9日
		13	生活保護就労支援員研修	福祉事務所等において生活保護の就労支援を担当する職員	40人	1月27日、29日
		14	〃 査察指導員研修	〃 査察指導を担当する職員	30人	12月21日
その他研修	民生委員・児童委員	15	① 民生児童委員研修(北部地区)	就任第1期、第2期の民生委員児童委員		DVD(録画配信)
			② 〃(中部地区)	〃		〃
			③ 〃(南部地区)	〃		〃
			④ 〃(八重山地区)	〃		〃
			⑤ 〃(宮古地区)	〃		〃
		16	① 中堅民生委員児童委員研修(機能別:本島地区)	就任第2期以上の民生委員児童委員		〃
			② 〃(機能別:宮古地区)	〃		〃
			③ 〃(機能別:八重山地区)	〃		〃
			④ 中堅民生委員児童委員研修(課題別:本島地区)	〃		〃
			⑤ 〃(課題別:宮古地区)	〃		〃
			⑥ 〃(課題別:八重山地区)	〃		〃
		17	① 民生委員児童委員協議会会長研修	単位民生委員児童委員協議会の会長等		〃
			② 民生委員児童委員協議会会長研修	〃		〃
		18	① 主任児童委員研修	主任児童委員		〃
② 主任児童委員研修	〃			〃		
その他	19	コミュニティソーシャルワーク研修	社会福祉協議会の職員及び市町村職員でコミュニティソーシャルワークに従事する者	100人	9月下旬	

《問い合わせ先》 沖縄県福祉人材研修センター TEL:098-882-5703/FAX:098-887-1071

# 赤い羽根共同募金運動が始まります！

つながりをたやさない社会づくり ～あなたは一人じゃない～



赤い羽根共同募金運動が10月1日から3月31日までの6か月にわたり全国一斉に展開されます。今年には新型コロナウイルス感染防止策を取りながら運動を進めていきますので、みなさまの心あたたまご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

**共同募金は地域福祉のための募金**

共同募金は「地域福祉の推進」を目的に、都道府県単位で毎年1回、厚生労働大臣の定める期間に限り行われます。寄せられた寄付金は社会福祉協議会の様々な福祉活動や子どもたち、高齢者、障がい者などを支援する団体の活動、災害時支援に役立てられます。

**令和2年度の目標額**

共同募金は、さまざまな民間の福祉団体などからの助成の要望をもとに助成計画を立案し、その計画に基づいた募金活動を展開する計画募金です。

令和2年度の目標額は2億664万8千円です。

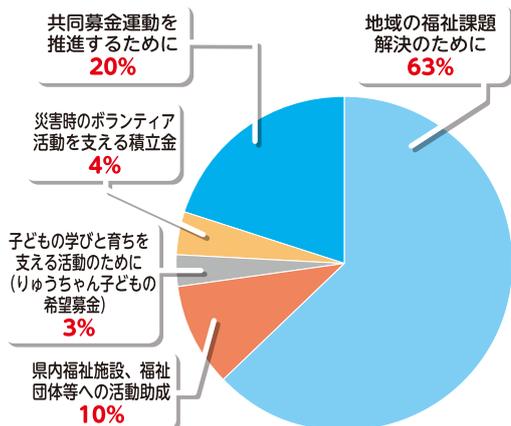
県民の皆様のご理解・ご協力が不可欠となりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 共同募金のしくみ



## 令和2年度（2020年）募金の使いみち

（単位：円）



赤い羽根共同募金の使いみち	令和元年度に集められた募金の使いみち	割合	令和2年度の募金目標額	割合
地域の福祉課題解決のために	106,850,551	57%	130,648,000	63%
県内福祉施設、福祉団体等への活動助成	27,800,000	15%	20,032,000	10%
子どもの学びと育ちを支える活動のために（りゅうちゃん子どもの希望募金）	7,434,000	4%	6,000,000	3%
災害時のボランティア活動を支える積立金	6,287,000	3%	8,351,000	4%
共同募金運動を推進するために	40,440,000	21%	41,617,000	20%
<b>合計</b>	<b>188,811,551</b>		<b>206,648,000</b>	

No.	法人団体名	拠点	事業名	内定額
1	(一社)ピクトリーチャーチ	那覇市	子どもの広場in那覇	500,000
2	中の町っ子子ども食堂	沖縄市	中の町っ子子ども食堂	500,000
3	学習支援ひろば「くじら寺子屋」	沖縄市	子どもの居場所家賃補助・修繕事業	450,000
4	つなひき無料塾	与那原町	つなひき無料学習塾	40,000
5	非営利活動団体HOPE LOVE	うるま市	生活困窮世帯包括支援、子どもの居場所支援・学習支援・食事提供の取り組み	500,000
6	みどり町三・四丁目子ども育成会	うるま市	子ども育成会で地域活性化	192,000
7	(一社)おきなわジュニア化学クラブ	沖縄市	子どもの居場所「美ら団子」食事提供・キャリア形成・学習支援プログラム	449,000
8	山城塾（無料塾）	那覇市	子どもの居場所、学習支援、食事提供、不登校・ひきこもり支援	500,000
9	シオンハウス育成会	那覇市	子どもの居場所におけるITサポート事業	400,000
10	私らしいお産を考える会	那覇市	若年出産者支援事業「10代ママくらぶ」	500,000
11	NPO法人サポートセンターゆめさき	沖縄市	不登校への総合相談・活動支援事業	153,000
12	NPO法人子どもシェルターおきなわ	那覇市	子どもシェルター運営事業	500,000
13	NPO法人こども家庭リソースセンター沖縄	沖縄市	ファミサポ支援「ていーだ基金事業」	500,000
14	(福)読谷村社会福祉協議会	読谷村	助け合い地域づくり事業（生活困窮世帯の緊急・一時生活支援）	100,000
15	(福)浦添市社会福祉協議会	浦添市	緊急一時支援事業	150,000
16	(福)沖縄市社会福祉協議会	沖縄市	法外援護事業	150,000
17	(福)宜野湾市社会福祉協議会	宜野湾市	緊急一時生活支援事業	150,000
18	児童養護施設なごみ	名護市	児童養護施設等退所児童の自立生活支援	50,000
19	児童養護施設美さと児童園	沖縄市	児童養護施設等退所児童の自立生活支援	150,000
20	児童養護施設沖縄県立石嶺児童園	那覇市	児童養護施設等退所児童の自立生活支援	150,000
21	児童養護施設愛隣園	与那原町	児童養護施設等退所児童の自立生活支援	100,000
22	児童養護施設島添の丘	南城市	児童養護施設等退所児童の自立生活支援	200,000
23	児童養護施設瀬水学園	宮古島市	児童養護施設等退所児童の自立生活支援	100,000
24	児童養護施設ならさ	石垣市	児童養護施設等退所児童の自立生活支援	100,000
25	(一社)沖縄県里親会	那覇市	児童養護施設等退所児童の自立生活支援	350,000
26	公益社団法人沖縄県母子寡婦福祉連合会	那覇市	奨学金給付事業（県母連奨学金 県母連奨学激励金）	500,000
				7,434,000



「りゅうちゃん子どもの希望募金」は平成27年度から琉球新報社と沖縄県共同募金会が協働で行っている募金運動で、子どもたちが健やかに育ち安心して学ぶことを支援する活動団体への支援に活用されています。

令和元年度は、多くの県民の皆様から706万円余りの募金が寄せられ、子どもの居場所として食事や学習支援を行う団体をはじめ、無料学習塾、不登校・ひきこもり支援を行う子どもシェルター、児童養護施設など26団体への助成が内定しました。7月1日に行われた内定交付式では、沖

縄県共同募金会湧川会長より、「コロナの影響により、子どもたちやその家族を取り巻く環境はこれまでになく厳しい状況を迎えている。子どもたちの健やかな成長を支え、貧困の連鎖を断ち切るためには、継続的に地域社会全体で支えていく必要がある」とあいさつを述べました。また、琉球新報社の専務取締役糸数淳氏は「子どものために活動する皆さんに敬意を表したい。今後も子どもへの支援をお願いしたい」とあいさつしました。

ボランティア企業が寄付付き商品やサービスを販売して、その売り上げの一部を赤い羽根共同募金へ寄付する「募金百貨店プロジェクト」に沖縄末病総合研究所（琉球治療院）が県内で初めて参加することになり、6月15日に那覇市共同募金委員会と覚書を交わす調印式が行われました。同研究所が運営する那覇市安謝の「メディアカルハーブカフェ」で特定のランチを一つ注文すること20円が共同募金へ寄付さ



▲内定交付式の様子

共同募金に関するお問い合わせ先  
（福）沖縄県共同募金会  
【098-882-4353】



▲調印式の様子

れます。なお、共同募金運動が始まる10月と歳末たすけあい運動が始まる12月の2カ月は募金額が2倍になる予定です。調印式で林代表は「募金は喜びや苦しみを分かち合うこと。この募金が沢山の人たちにいき届いて皆の力になればと思います」と挨拶がありました。

社会福祉ライブラリーから

本の紹介



ライオンのおやつ

著者：小川 糸 出版社：ポプラ社

人生の最後に食べたいおやつは何ですか？

若くして余命を告げられた主人公の雫は、瀬戸内の島のホスピスで残りの日々を過ごすことを決め、穏やかな景色のなか、本当にしたかったことを考える。ホスピスでは、毎週日曜日、入居者がリクエストできる「おやつの日」があるのだが、雫はなかなか選べずにいた。

食べて、生きて、この世から旅立つ。すべての人にいつか訪れることをあたたかく描き出す、今が愛おしくなる物語です。



▲29期 かりゆし長寿大学 木曜日コース 陶芸クラブ様(6.18)

- 【写真左から2人目】 会計 松山 美智子 様
- 【写真左から1人目】 メンバー 富川 己美子 様
- 【写真右から2人目】 本会 常務理事 嘉陽 孝治
- 【写真右から1人目】 本会 事務局長 高良 正樹

御寄付・御寄贈いただき、誠にありがとうございました。

寄付・寄贈者芳名

(6月1日～7月31日)



▲沖縄明治乳業株式会社様(7.7)

- 【写真左から2番目】 沖縄明治乳業株式会社 代表取締役社長 村田 紳 様
- 【写真左から1番目】 同社 取締役営業本部長 仲田 和男 様
- 【写真右から2番目】 本会 会長 湧川 昌秀
- 【写真右から1番目】 本会 常務理事 嘉陽 孝治



▲古波津家 皆様(7.1)

- 【写真左から2人目・1人目】 古波津ご夫妻
- 【写真右から2人目】 本会 会長 湧川 昌秀
- 【写真右から1人目】 本会 常務理事 嘉陽 孝治



▲沖縄県軍用地等地主会連合会様(6.24)

- 【写真左】 一般社団法人 沖縄県軍用地等地主会連合会 会長 眞喜志 康明 様
- 【写真右】 本会 会長 湧川 昌秀

編集後記

少しずつ、秋の足音が近づいて来ましたね。個人的には春と秋の時にある、暑くもなく、寒くもない、心地よい天気の日が大好きです。

※本会への寄付については、税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは総務企画部まで

- 第一三共株式会社 グループ社員 皆様
- 四国扇子株式会社 様
- かりゆし長寿大学 19期 いきいきクラス様
- 稲葉 智枝子 様
- NPO法人抱撲 様

写真掲載以外の寄付・寄贈者芳名



▲旭潜研株式会社様(7.28)

- 【写真左】 旭潜研株式会社 代表取締役 杉浦 武 様
- 【写真右】 本会 会長 湧川 昌秀

「沖縄の文化を自分が思う形で表現して楽しんでいきます」そう話す榮野川盛治さん(71歳)は、元々絵を描くことや物づくりが好きだったこともあり、約20年前から通信教育で日本画を学び始めたそうです。また、職場で同じ趣味をもつ同僚とともに、個展を開催しながら切磋琢磨してきたそうです。今回の作品は、ワクヤーをサルが行っているという、その地域特有の文化とユニークさを描いたそうです。今後地域のみつりに向き、その地域特有の文化を作品として描いていきたいとのことでした。

表紙の作品

作品名 「シーシとワクヤー」



作成者：榮野川 盛治 さん